

都城市議会議長 様

提出日 平成28年2月2日

産業経済委員会行政視察報告書

以下のとおり視察の報告をいたします。

1 産業経済委員会行政視察参加委員

委員長・有田 辰二

副委員長・永田 照明

委員・榎木 智幸

榆田 勉

神脇 清照

相葉 一夫

川内 賢幸

2 視察先・テーマ及び日時

■平成27年10月27日（火曜日） 9：30～16：00

児湯郡新富町・・・第57回宮崎県畜産共進会

3 視察の内容

◎第57回宮崎県畜産共進会における、出品者への支援体制及び関係機関との連携について調査。

4 委員感想等（別紙添付）

5 添付資料

産業経済委員会行政視察報告

柳田辰二

(視察日程) H.27年10月27日

(視察内容) 第59回宮崎県畜産共進会「肉用種牝牛の部」

第59回共進会が新富町の豊湯地域家畜市場で開催し、第1類に25頭
2類に22頭、第3類に8セット24頭、計71頭が出品された。

増え辰典エム(志和地)出品のみえ2号が第2類の優等4席に
選ばれ、第3類は特別賞で相似性賞を受賞(東節雄エム、

梅ヶ谷善照エム(庄田) 松枝みどりエム(梅地)) でした。

「全体的に各地区より選抜されたこともあり、発育、体積に富み、
体の均称、毛質、尻の形状が非常に優れ、牛が9割レベルの
高い共進会」との講評がありました。

山田正徳和牛生産者会代表のみなさんが夕飯会場に参加しておい

生産者、JA・行政の代表と話し、良い牛との取り組みが感じられた

他地区のレベルに近づきつつあると感じることもありました。

視察すべしことにより、このように関心を得ることもありました。

都城市議会産業経済委員会視察研修報告書

永田 照明
楡田 勉

行政視察日程 平成27年10月27日(火) 晴れ
市役所 発 午前9時30分 ～ 午後4時00分 市役所着

視察研修先 児湯郡新富町(児湯地域家畜市場)

研修項目 「第59回宮崎県畜産共進会出品牛視察」

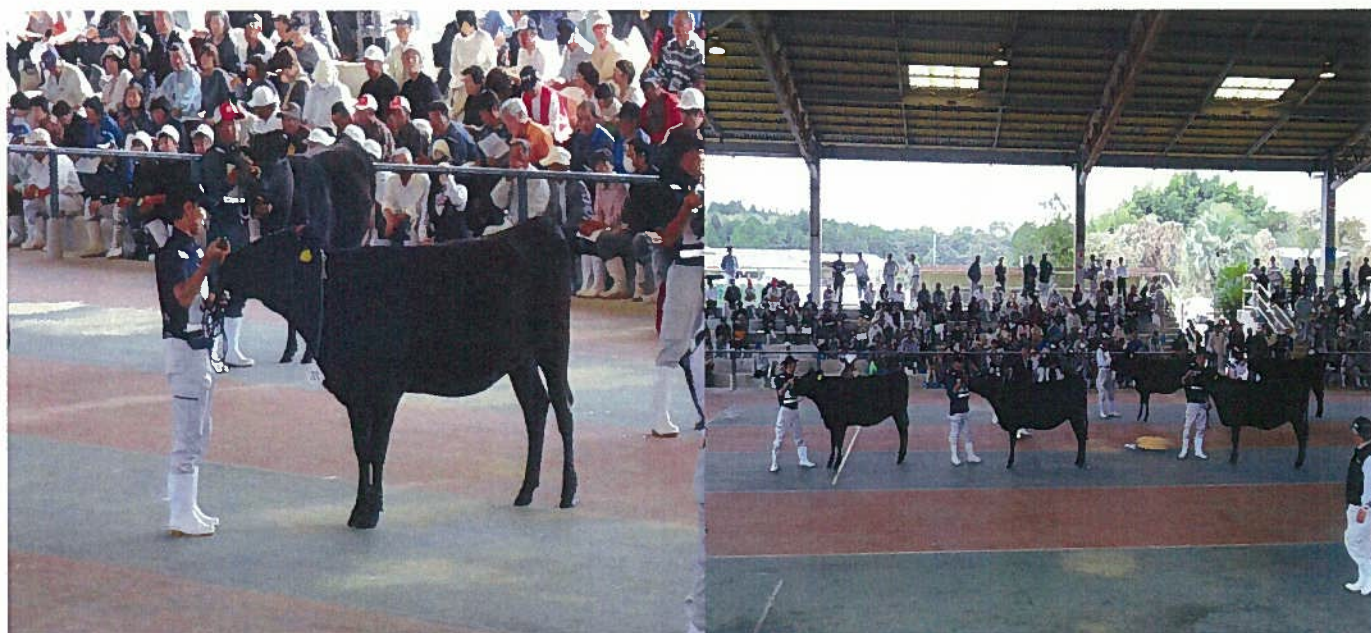
共進会出品頭数

種類別	県内頭数枠	都城農協出品頭数	都城の成績
1 類	25	4	1等賞3頭・2等賞1頭
2 類	22	4	優等1頭・1等賞2頭・2等賞1頭
3 類	24	3(1組)	1等賞
合計頭数	71	11	

感想

今回の成績を考えれば、都城農協、行政担当者が点数を左右する出品牛の栄養度を生産者任せでなく厳しく指導する必要がある。

都城農協が、2年後の全国和牛共進会を目指すのであれば、審査場内における審査時の引き手に対する指導と出品牛の立たせ方により審査員の見方が違うので、引き手と出品牛の調教訓練が必ず必要となる。



第59回宮崎県畜産共進会 視察報告書

平成27年10月27日(火) 産業経済委員 神脇清照

10月26日から27日に児湯郡新富町の児湯地域家畜市場において県の共進会が開催され、産業経済委員会7名で10月27日視察致した。

2010年の口蹄疫で被害が集中した、西部、児湯地域での開催は終息後初めての開催で、県勢が連覇中の全国和牛能力共進会(全共)都城大会を2年後に控え、県内8地域を勝ち抜いた、3部門7ノ頭が集まり、牛の体形や体格が厳しく審査される中、例年のごとくハイレベルな争いが展開された。

全3部門の優等首席のうち、最も優れた牛に与えられるグランドチャンピオンに第1類(生後12ヶ月以上、17ヶ月未満の雄牛)首席の森田直也さん(40才、小林市東方)が輝いた。

テレビ等の報道でグランドチャンピオンに選ばれた地元関係者の連携、取組み、意気込みが強く感じとられたところだ。

都城地域においても、行政、関係団体が一体となり、連携を密に図りながら、大きな目標に向かって奮起を期待したい。

めざせ日本一！ 都城！！

産業経済委員会行政視察研修報告書

産業経済委員 相葉 一夫

視察日程 平成27年10月27日 (火)

視察地 新富町 児湯地域家畜市場 第59回宮崎県畜産共進会

県内肉用種牛で黒毛和種、生後12か月以上17か月未満牛(一種)、生後17か月以上22か月未満(2種)、また種雄牛産子3頭を持って1郡とする(3種) 県内総数71頭メス牛が参加し、都城管内から11頭出品、どの地域からもしっかり育てられ、手入れされた出品牛だけあって甲乙つけがたい、審査を見届ける中、審査委員4名による審査より、優等牛、1等、2等牛と審査される中、都城地域の出品牛もあと一步届かず1等牛が多かった、どの地域もだと思いが牛の育成に高齢化が進んでいるのではと感じたところである、後継者育成支援に取り組むことを痛感した。

産業経済委員会視察研修報告書

榎木 智幸

視察目的：第59回宮崎県畜産共進会「県共進会」への取り組み状況について

①出品者への支援体制 ②関係機関との連携

期日：平成27年10月27日（火）12：30～16：00

場所：児湯地区家畜市場

（所見）

昼からの審査発表からの視察となった、各地区からの応援団も多い中、都城市の方々も多くこられており大会入賞への期待度の大きさを感じさせた。都城市は出品者の服装の統一や「都城」の旗が掲げられ出品者と農協・行政の一体感を感じた。

都城市は第2類では4席に入る検討を見せたが、西諸や高千穂地区の上位入賞が目立大会となった。関係者の話によると強いところは、全国大会の常連で、何年もかけて大会用の系統牛を確保して育ててきており、さらに大会に向けて出品者の育成にも力を入れているとのことだった。宮崎県の和牛共進会は全国大会に匹敵するほどのレベルとなっており優勝への壁の大きさは感じたが、一歩々入賞に向かっていることを実感できた大会であったと思う、今後も精進を重ねていただき行政においても支援の手を緩めることなく一致団結して前進して欲しい。



1 視察の感想

口蹄疫終息以降、初めての児湯地区での開催ということもあり、会場での防疫対応も含めて県の現在の体制を視察することができた。

当然のことながら、県内各地から出品者並びの関係者が大勢来場する大会であり、本市で開催の場合の参考にもなった。

一方、大会の出品牛の成績については西諸地区が優勝、各部類でも上位を占める成績を出した点、会場での取組・応援体制等、すべてにおいて本市よりも優れて見えた。

これまで、全国共進会に都城からの出品を目標に予算計上し取り組んでいるが、簡単な道のりでない事も改めて感じた。

2 視察の成果及び市政への反映など

他地区の取り組み状況や、熱意、行政の応援体制等を直に見ることができ、今後の参考になった。

まず、会場の体制については口蹄疫終息後初めての児湯地区大会であり、防疫体制に注目をしたが、通常通りの体制で基本を押さえたものであると感じた。口蹄疫終息後、5年の際月が経っているので当時のようなピリピリとした防疫体制ではないのは当然かもしれないが、大勢の来場者がある大会にしては、「消毒徹底」という空気は薄く感じたのも事実である。海外での口蹄疫発生は依然として見られることから、本市での開催時はもちろん今後の防疫体制についてももう一度考える時期ではないかと感じた。

次に、出品者の待機場所については、会場の性質もあると思うが、狭く行き来しにくいと感じた。開催が一日で終了ということもあるかも知れないが、もう少し動線とストレスの軽減を考えた配置ができないものか今後の課題を得た。

最後に、全国和牛共進会に向け日本一の牛を都城からを目標に予算計上している本市であるが、他地区との差、特に西諸との差をまじまじと見せられる形となったと思う。あくまで、個人の視点ではあるが、都城地区から西諸地区に入った時の雰囲気、牛への関わり方、応援体制、どれをとっても開催地が西諸地区かと思うほどの熱意を感じた。牛そのものについては、系統やそれぞれの牛のポテンシャルもあるので一概に言えないが、牛も人が作ることを考えれば、やはりこういった差が最終的には結果につながるのだろうと感じた。

今後は、行政、議会、JA、農家等とより一層の一体感と熱意、気合を持って取り組まなければ二年後の全国大会出場、ましてや日本一は遠いものである。本市の事業が一過性

のもので終わらず、今後も肉と焼酎日本一のまちとなり続けるため今回の視察を市政のさらなる発展につなげることができるよう反映させていきたい。

3 添付資料

